

アラフエラ湖流域総合管理 参加型村落開発プロジェクト終了時フォーラム開催

6月16日、パナマ市内のホテルで「アラフエラ湖流域総合管理計画 参加型村落開発プロジェクト」終了時フォーラムが開催されました。本セミナーには、ボリバル・ペレス環境庁副長官代理やエリック・ロドリゲス流域総合管理局長代行を始めとする環境庁関係者の他、パナマ運河庁や農牧開発省などのプロジェクト関係者が多数出席致しました。

また、日本側からは、水城 在パナマ日本大使、表 JICA パナマ支所長、坂井 JICA 専門家などのプロジェクト関係者が出席致しました。

フォーラムの中では、プロジェクトの成果報告として、これまでの活動をまとめたビデオ上映や、今後の活動計画が発表されるとともに、環境庁のアラフエラ湖流域管理政策やパナマ運河庁の住民参加型の運河流域保全に対する取り組みが報告されました。

ボリバル・ペレス環境庁副長官代理は、冒頭、2006年より始まった本プロジェクトに対し、日本の協力を感謝の意を示すとともに、プロジェクト終了後も、環境庁が責任をもって継続していく旨述べました。

また、水城大使は、プロジェクト終了後も、環境庁（ANAM）が独自に活動を展開していけるよう、最後まで支援していく旨述べました。



セミナーの様子

アラフエラ湖流域総合管理 参加型農村開発プロジェクト

- ①実施機関 環境庁（ANAM）
- ②実施期間 2006年8月～2011年7月
- ③案件概要 パナマ環境庁による流域保全の普及体制を確立し、村落毎の住民有志によるグループのメンバーが、環境と両立する持続可能な生産技術を獲得・実践することを目指す。
- ④主な実施内容：1)研修やグループ内ミーティングを通じた農民で形成されたグループの組織強化、2)環境に配慮した農業技術の普及、3)農地利用計画の作成、4)土壌浸食の可能性のある地区への植林の実施、5)紙芝居などを通じた学童を対象とした環境教育、6)環境意識啓発活動の実施、7)本プロジェクトの成果を踏まえたガイドラインの作成

水城大使 挨拶 (邦訳))

- ① さて、本日は、2006年から5年間実施してきました「アラフエラ湖流域総合管理 参加型村落開発プロジェクト」の集大成ともいえます最終フォーラムに参加することができ、私としても嬉しく思っております。
- ② まず、3月11日に発生した「東日本大震災」について、マルティネリ大統領はじめパナマ各界からお見舞いと協力の申し出に対し、深甚なる感謝を申し上げます。これらは、パナマ国民の友情と連帯の何よりの証であることを実感いたしました。日本は今、復興に向けて歩み始めておりますが、今回のような技術協力を続けることが、パナマからの支援に対する恩返しとなることを願っています。
- ③ パナマは著しい経済成長を遂げている一方で、環境に対する配慮が、国内の課題となっております。特に、アラフエラ湖を含むチャグレス川流域は、運河航行の安定した水源、および首都近郊150万人以上の住民に供給する水源としての機能を果たしており、同時に、多様な生物が生息する地域として世界的に重要な地域です。このため、同地区においては、自然を守りながら住民の生活を向上していくことが課題であり、日本政府は、技術協力を通じて、パナマ政府とともに、この課題に取り組んできました。
- ④ 具体的に申しますと、本プロジェクトは、2000年10月から5年間実施しましたパナマ運河西部の環境保全を図る「パナマ運河流域保全計画」の続きとして行われたものであり、パナマ運河東部にあるアラフエラ湖流域の環境保全のため、同地区の住民に対し、環境に配慮した農業を教えるものです。
- ⑤ 主な協力内容ですが、日本側から、現地業務費用として約70万ドル支出した他、機材供与、専門家派遣、研修員の受け入れを行い、農地の利用計画の作成、有機栽培方法の伝授や、植林などを実施してきました。これらは、環境に負荷のかからない持続的な生産及び消費ができる農業の方法として、日本では実際に行われているものです。本プロジェクトが、環境と経済活動の両立の一歩として役立てば幸いです。
- ⑥ プロジェクトは7月で終了しますが、その後も環境庁 (ANAM) が独自に活動を展開していけるよう、日本政府も最後まで支援していく所存です。最後になりますが、本フォーラムの成功を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。有難うございました。